

生涯
学習課



新成人としての決意を述べる中村さん

人生の 節目を ふるさとで 祝う

平成20年度
庄原市成人式



祝賀パーティーで交流する新成人

平成20年度庄原市成人式が8月15日、庄原市民会館で行われました。

今年対象となった新成人は、昭和63年4月2日から平成元年4月1日までに生まれた市内在住者および庄原市出身者で、373人が式典に出席しました。

滝口季彦市長は「今日の思いを忘れず、どんなことでも前向きに、人の役に立てるよう心がけながら力強く人生を歩んでください」と激励しました。また、新成人を代表し、中村祐也さん(濁川町)が「今こうしてこの場にいられるのも家族や友人、地域の皆様の支えがあったからこそ。これからは全ての面で自分自身の責任と自覚を持って前進

する覚悟です」と決意を述べました。

式典の後、ゴスペル歌手の市岡裕子さんが「人生あきらめたらあかん!」と題し、記念講演を行いました。ゴスペルソングを交えながら「足りないものに不平不満を言わず、有るものに感謝しよう」と新成人にエールを送りました。

祝賀パーティーでは、それぞれの近況を話しながら、懐かしい友との再会を楽しみました。



講演する市岡さん

商工
観光課

就職するなら

庄原市へ

庄原市合同企業説明会

庄原市合同企業説明会を8月9日、庄原市ふれあいセンターで開催しました。

これは、地元就職を希望する方と市内企業との出会いの場を設け、庄原市への定住を促進しようと今回で2回目。市内の製造業や社会福祉事業など各職種17社が参加しました。

会場では、大学生や中途就職希望者、その家族の皆さんなど34人が、それぞれの企業ブースを訪ね

て、熱心に情報収集をしていました。

また、庄原市による定住相談コーナーも設け、定住に関する情報を幅広く発信しました。

市は、昨年度から『待つとるよ! 庄原定住プロジェクト』を策定し、各種定住施策を実施しています。定住相談などお気軽に商工観光課定住促進係(☎0824731178)へお問い合わせください。



採用担当者の話を熱心に聞く参加者



企画課

県大の研究成果を地域振興に 研究開発助成事業に新たに2件



森永教授(上)、吉野准教授(右)

市は平成17年度から、県立広島大学の研究者が行う地域資源を活用した農林業振興や環境保全、福祉関連の研究に対し助成する「県立広島大学研究開発助成事業」を実施しており、本年度の新規助成対象研究課題として、2件の研究課題を採択しました。

この事業は、大学の研究者が所
有する知的資源を活用した研究成
果を商品化・事業化に結び付け、
新たな産業創出による地域活性化

を図ることを目的としています。

5月中旬から6月初旬の間で研究課題を募集したところ3件の提案があり、審査を経て森永力教授の「籾殻・竹からのバイオエタノール生産」と、吉野智之准教授の「庄原市農産物を活用した特産化加工食品の開発」に決定しました。

本年度、2件の助成総額は762万円となります。

今後は、研究担当者やしよばら産学官連携推進機構と連携しながら、庄原市の地域活性化や新産業の創出につなげていきます。



各地域を代表して7自治振興区がステージ発表

地域の成果 つなげて生かす

自治振興区活動報告会

自治
振興課

8月2日、東城支所で、庄原市自治振興区活動報告会を開催しました。

昨年度に自治振興区活動促進補助金を活用し、さまざまな事業に取り組んだ18自治振興区がその成果をポスターにして紹介。そのうち7自治振興区がステージで発表しました。

地域づくりのヒントを見つけようと、会場には約180人が参加し、発表を熱心に聞き入っていました。

広島県立大学の野原建一名誉教

授は「各自治振興区の地域を愛する気持ち伝わってきた。この活動促進補助金制度は地域づくりの先進的な取り組みとして他市町の注目を集めている。一方、これまでに60%以上の自治振興区から活動促進補助金の申請がなされているが、未だ申請されていないところもある。男女共同の参画でしっかり話し合っていたら、活発な地域づくりにつなげてほしい」と講評しました。

総務課

渇水対策で 生活用水を給水

小雨と猛暑で記録的な水不足

庄原市の7月の降水量は平年の10%程度と極端に少なく、井戸などの生活用水や、農業用水など、市内各地で著しい水不足が生じました。

市は8月から水不足の対策として、臨時給水施設の開設による有料販売、各地区公民館・自治振興センターで生活用水(40リットル程度)

の無料提供、高齢者世帯などへ生活用水の運搬を行いました。

8月22日現在で、延べ65件が利用。臨時給水施設の利用者は「生まれて初めて池の水が枯れた。こんな水不足は経験がない」と話していました。

これからも水不足に備え、日ごろから節水に心掛けてください。



水道課で給水する市民



被害の大きい綿陽市北川県



國光副市長(中央)から曾代理市長(右)へ義援金を手渡し、綿陽市から感謝の意を込めペナント(左)が贈られる。

企画課

復興を願う 市民の思いを届ける

綿陽市へ義援金を贈呈

國光拓自副市長と矢吹有司財政課長の2人が8月4日〜6日、四川大地震により被害のあった友好都市中国四川省綿陽市を訪問し、募金活動などで集めた義援金を、綿陽市政府と綿陽庄原友好小学校へ贈呈しました。

綿陽市政府では、國光副市長が「市民をはじめ多くの方から預かった義援金には、綿陽市と市民が災害を乗り越えて復興し、引き続き庄原市との友好交流の発展ができるよう願いが込められています」と、滝口季彦市長のメッセージを伝え、4704,000円の義援金と1,891人の署名を手渡しました。

曾万明代理市長は、「庄原市の支援に勇気づけられました。義援金により復興は順調に進むものと感謝しています。いただいた署名簿は地震博物館(仮称)へ収蔵しま

す」と歓迎しました。

綿陽庄原友好小学校へは、義援金300万円を贈呈。董柱猷校長は「庄原市のご好意に大変感謝しています。この小学校では、地震による児童への被害はありませんでした。できるだけ早く復旧し、より良い学校を目指します」と決意を新たにしていました。

今回、義援金を直接手渡すことで誠意が通じました。お互い苦しい時こそ悲しみを分かち合い、うれしい時は一緒に喜べるような歴史を綿陽市と重ねていきたいと思いま



市街地周辺の様子